

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 12 月 9 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471502447		
法人名	佐々木産業有限会社		
事業所名	あけぼのあゆみホーム		
所在地	〒721-0952 広島県福山市曙町五丁目5番25号 (電話) 084-954-5704		
自己評価作成日	平成25年11月18日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3471502447-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成25年12月5日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

○庭には野菜やお花を作ることもでき、また散歩して頂けるスペースも確保することで、閉鎖的にならないよう、またゆったりと生活して頂けるよう工夫しています。
○入居者の方にはいつも笑顔で接するよう心がけています。そして出来ることは自分でしていただき、出来ないことをお手伝いすることで、残った機能を少しでも長く使えるよう支援しています。
○防災訓練への参加を呼びかけるなど、地元町内との協力体制確保にも努めていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当事業所は、福山市市街地の住宅街に介護施設として設計され、将にグループホームとして計算し尽くされた造りとなっていて、利用者・職員にとってはゆったりと快適な毎日が過ごせる場所となっている。又、経営者の人望と幅広い人脈が事業所運営の随所に活かされている。ホーム長、職員は経験豊富なベテランぞろいで、①利用者の「残存能力を活かす」②利用者・家族・職員の全てが「笑顔」に溢れたホーム作りに取り組み、10年を区切りとして新たな理想に向かって力強いスタートを切られた様子が伺えた。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	昨年、職員全員で話し合っって新しく作った理念にそった介護をしていくように、毎日唱和して現場に入っている。	この度、事業所設立10周年を機に理念の見直しを行い、新たな理念を全職員で作成して毎朝唱和する事で確認と徹底をはかっている。又、職員一人ひとりの「取り組み目標」を定め、定期的に進捗度合いの検討を行う事で理念が実践に繋がるような目標設定を現在検討されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の行事にも出来るだけ参加するよう心がけている。入居者は盆踊り見物や、文化祭に作品を展示し、見学にも行っている。また職員も春と秋の清掃活動や冬の夜回りにも参加している。	事業主が町内会長、民生委員を務められ更に「事業所が地域に貢献・協力する姿勢」を重視されているので、地域と事業所の交流、情報交換は活発に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議には町内の役員さんや民生委員さんたちに出席してもらい、意見を頂いている。 ホームにいるオレンジアドバイザーについても推進会議で紹介している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ホームの取り組みや状況、問題点等を報告し、またご意見をいただき、それを職員会議の場で話し合い、みんなで実践するようにしている。	運営推進会議は各方面からの参加を得て定例的に開催されている。議題は1点に絞り集中的に議論され、活発な意見交換により明確な方向性や対策が導きだされている。	運営推進会議には、出来るだけ多数の家族が出席される事により、家族会の発足や積極的な運営参加に繋がり、地域・家族・職員の3者が協力して利用者を支援していく体制を築かれるよう期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	年6回の推進会議には毎回2名の参加を頂いている。 ホームの実情をお話ししたり、相談をし、意見をいただいている。	運営推進会議は午後7時より午後8時の1時間をかけて行われている。この会議に毎回2名の市役所職員が出席されている事からも事業所と市町担当者との親密な協力関係が伺い得る。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>入居者の方一人一人の普段の行動をよく理解し、危険な行為が予測される時は鈴やチャイム、徘徊センサーマット等で素早く対応出来る様に取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束に関する事業所の方針の確認、及び「身体拘束ゼロへの手引き」をもとにした勉強会を定例的に実施し、職員の共有認識を図ると共に、日々のミーティングに於いてもお互いのケアを振り返り、相互に点検する事で身体拘束をしないケアに取り組まれている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>スタッフが交代で研修に参加して、それをホーム内で勉強会を開き、全員に徹底していくよう努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>職員は書物や話し合いで学ぶように心がけてはいるが、入居者の家族の方たちは個々の事情で活用が難しい面もある。しっかり話し合っていきたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居される時に丁寧に説明して解って頂けるようにしているが、その後家族の方から質問があれば、誠意を持って話し合うように努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>推進会議にも交代で出席してもらっているが、面会の時等にもしっかりと話を聞くように心がけている。</p>	<p>何でも思った事が言える雰囲気づくりと職員との信頼関係を重視し、特に家族については交代で出席する運営推進会議の場や毎月の利用料の支払いで来所された時等の機会を捉え意見を聞くようにしている。又、聴取した意見は介護計画作成に反映したり、全職員が閲覧出来るよう記録されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月の職員との定例会、その他随時聞く様努めている。</p>	<p>月1回のユニット会議や経営者が参加される全体会議を通じて職員の運営に関する意見交換が行われている。最近では、利用者の介護度が進み食事に時間がかかるようなので、食事時間を早めてゆっくと食事が出来るように食事時間の見直しがなされた。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>一定の評価制度に基づき、職員の努力に賃金等で反映するようにしている。社会情勢を把握し、更に検討する。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>特に経験等を配慮し、研修参加に努めている。資格を取ると賃金に反映するシステムを実施している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>実際には困難なことであるが、包括支援センター等を通じ、サービス向上に努める。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前にアセスメントを行っているが、入居後に再度要望等の確認を行い、傾聴の姿勢を心がけ、本人の思いを受け止めるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前に家族にホーム内の見学をして頂いたり、自宅に伺い生活状況の把握、本人の思いを聞き、安心して頂けるよう努めている。入居前の情報はスタッフ間で共有している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>入居の相談を受けた際に他の事業所のサービス内容も説明し、いろんな視野で判断できるよう支援している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>食事やティータイム、掃除や洗濯、畑や花壇の手入れ、レクリエーション等、生活を共に楽しむ姿勢を大切にすることで、笑い合ったり労わり合ったり感謝を伝え合ったりしながら、信頼し合える関係を築けるように努力している。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>常時、面会・外出・外泊の受け入れを行っており、お盆やお正月等は出来るだけ家族と交流を持っていただくよう支援している。また職員もご家族との関わりを大切にし、連携を図っている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>馴染みの方との面会の受け入れや、馴染みの場所に外出できるよう支援している。</p>	<p>友人や家族の訪問は見られるが、馴染みの場所に行きたいという要望が無くなってきているので、外出時に思い出の場所や以前に行きたいと言われていた場所にお連れしたり、事業所でお孫さんを含めた家族が正月のおせち料理を囲む等して、馴染みの人や場所の関係を継続できるよう工夫されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	利用者同士でどうしても気が合わない場合は、スタッフが間に入ったり、席を少し離れていただく等している。		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	サービス利用が終了しても、どこかでご家族と会った時は、近況を尋ねるなど交友関係は続けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	日々の会話の中から本人が何を思い望まれているかをくみ取れる様に、常にスタッフ間で話し合っている。会話困難な方はその方の立場に立ち、安心安楽に過ごせるよう検討している。	日々の会話や入浴時の対話から利用者の思いや意向把握を行っているが、家族からも以前の生活状況等をお聞きして出来るだけ多くの情報を参考にしながら、総合的に判断し職員間で共有している。	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	入居時にご家族より聞き取りを行っている。日々の会話の中から本人より昔の話を聞き出している。		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	個人記録に一日を通しての行動、言葉、バイタルチェック、食事や水分摂取量、排泄のリズムを記入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>3か月に一度モニタリングを行い、各担当ユニットの全スタッフ参加でサービス担当者会議を開いている。医師からは往診時に、ご家族からは来所時に意見を頂いている。</p>	<p>3か月毎に、事業所で使用している「ケアプラン評価表」を基にユニットの全職員で話し合いを行い、医師・家族の意見を参考にしながら介護計画を作成し、詳細な支援経過を関係者全員で記録し次回の介護計画作成に活かしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人記録や日勤、夜勤別の申し送りノートを記入し、スタッフ間で情報を共有している。記録を基にモニタリングを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>当ホーム以外のサービスは利用していない。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の夏祭り、秋祭り、文化祭に、スタッフが付き添い、参加している。文化祭へは習字や手芸等の作品を出品している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時に御家族希望の上でかかりつけ医を定めている。かかりつけ医による月2回の往診を受けている。ホームのかかりつけ医は24時間対応して頂けるシステムになっている。</p>	<p>原則的には、かかりつけ医の受診は職員、専門医・総合病院の受診は家族が対応する事となっている。又、ホームのかかりつけ医は毎週訪問診療されており、入院及び24時間の対応が可能で適切な医療を受けられるようになっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医の看護師と連携し、24時間連絡相談出来る体制を取っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院の際、スタッフが付き添い、情報提供を行っている。入院中は随時面会に行き、医師や看護師より状態を聞いている。退院時も医師よりホームで生活する上での注意点等情報を頂いている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時にご家族へ十分に説明している。状態の変化があれば医師の指示を仰ぎ、その都度ご家族と相談しながら出来る限りホームで支援している。</p>	<p>過去に1例の看取り経験があるが、将来に備えて事業所方針の徹底、関連書類・マニュアルの整備や職員の研修、医師との連携等の諸課題について取り組まれている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>マニュアルを作成し、全てのスタッフが緊急時慌てず行動出来る様にしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回避難・消火訓練を実施している。訓練には近隣の方にも声を掛け、参加をして頂いている。運営推進会議でも議題に取り上げ話し合っている。</p>	<p>排煙設備・スプリンクラー等のハード面や非常用備蓄品は完備され、定期的訓練も近隣住民の参加を得て実施されている。更に住民と共にDVD（避難訓練に関する）を視聴したり、水害時の避難用特殊専用船の購入検討、避難場所の確保等々積極的に災害対策に取り組まれている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご本人の人格を傷つけないよう言葉使いに配慮し、思い違いがある時は何度も説明し、対応している。	「品位と確たる倫理観を体した職員像」についての話し合いや、マナー教育とプライバシーの保護に関する勉強会を積み重ねる事によって、利用者を始め周囲から信頼されるよう取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションを保ち、気持ちや思いを聞いて、ご本人の希望に添うように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の気分や状態の変化に配慮しながら、必要な支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着たい衣服をご本人が選択し、着ていただいている。どの衣服を着てよいか迷われた時には、助言をし、支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	施設内の菜園で収穫した野菜も使い、調理したりしている。利用者の個々の能力に合わせて準備や片付けをして頂くようにしている。	配達された食材を事業所で調理した食事の提供が行われているが、朝食と週1回の食事は利用者の好みや希望を取り入れて手作りのものとなっている。又、家族と共に外食する等の変化も持たせている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	一人一人の状態に合わせ、食事量やミキサー食を提供している。一日に必要な水分量は摂取できるよう心がけている。		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	声掛けにて必ず見守りし、必要に応じ、介助で口腔ケアを行っている。就寝前は特に残渣物の確認をしている。		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	排泄パターンを把握しつつ、個々の動作や行動で声掛けや誘導を支援している。	トイレでの排泄を基本とし、夜間はポータブルトイレを活用される利用者もある。各利用者のおむつ、パッドの使用根拠を明確にして、排泄パターンに沿った誘導や時間排尿を行っている。	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	排便チェックを行い、記録し、水分補給を心がけ、トイレでは腹部マッサージ等を行っている。		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	室温や湯温を調節しながら、ご本人のペースに合わせた入浴を支援している。	基本的には2日に1回、3時から入浴となっているが、状況により臨機応変に対応されている。入浴時には利用者と職員のスキンシップと対話を重視し、時にはシャワー椅子も活用する等して利用者が爽快感と満足感が得られるよう支援されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人の希望する時に自室で休まれたり、お仏壇を拜まれたり、それぞれ自由な時間を作って頂けるように支援している。 日中適度な活動を促し、夜間安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診、往診時の内容、薬の処方変更時は必ず申し送りし、全スタッフが情報を共有するようにしている。症状の変化時は医師の指示を仰ぎ、対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご本人の状態に合わせて家事等の役割分担をしている。 行事への参加や近隣の散歩、楽器の演奏など、気分転換の支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人一人の状態に合わせてスタッフが付き添い、散歩に行ったり、日用品の買い物へ行ったりしている。御家族と食事に出掛けられたりもされる。	利用者の体調や気候を考慮し、近隣の公園やコンビニに出かけ運動と気分転換を図っている。又、お正月のお宮参り、夏越し祭、公民館での展示物（利用者や住民の作られた書や絵画等）の鑑賞等、希望に沿った外出支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族より個々にお金をお預りしており、金銭出納帳にて管理している。希望があればスタッフが付き添い、日用品等を買に行かされている。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価 実施状況	外部評価 実施状況 次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>家族やお友達からの手紙は喜ばれるが、返信は難しい。電話はご本人が希望される場合、先にご家族の了承を得た上で掛けてもらっている。かかってきた場合は取り次いでいる。</p>	
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>エアコンで適度な室温が保てるようにしている。季節ごとに手作りの壁飾りを一緒に作成して皆で飾るなど、居心地の良い環境作りに努めている。</p>	<p>全ての共用空間は、十分なスペースが確保され、特に食堂の天井部は高くて解放感に満ちている。さりげない飾りから季節感が感じられ、ゆったりと過ごせるようになっている。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングのソファや畳で自由に過ごされたり、居室での一人の時間は見守りで思い思いに過ごせるような工夫をしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご本人の慣れ親しんだ品や写真、本等を置き、壁には自分で作成した作品を貼って、心穏やかに過ごせるように配慮している。</p>	<p>全室、整理ダンスと洋服ダンスが完備されている。ベッドをはじめ従来から使い慣れた物や、仏壇その他の利用者が希望される物を配置し、居室では伸びやかに寛げるよう配慮されている。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>トイレや浴室、個々の居室等の表記や個々の物品には名前を表記している。ダンスの引き出しに品名を表記している。自主的に行動されている時には、見守り、アドバイス等の支援をしている。</p>	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 あけぼのあゆみホーム

作成日 平成26年1月18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	職員全員で理念を唱和し、徹底を図っているが、今以上に実践に繋げる様にしたい。	職員一人ひとりの取り組み目標を定めて定期的に検討を行い、理念が実践に繋がるようにしていく。	毎月の会議で個々の取り組みを話し合い、進捗度合いの検討をしていく。	一年
2	35	職員だけでは入居者全員を避難することは大変難しいので、近隣の方々に協力をお願いしていく。	防災訓練時に住民の方々に参加を呼びかけて、出来るだけ多くの方に協力を仰いでいく。	昨年同様町内の回覧で呼びかけてもらう。又、推進会議においても町内役員と話し合い、ホームの取り組みを理解してもらう。	一年
3	4	入居者の家族同士の交流が少ない。	同じ想いや悩み相談等、入居者の家族の同士が話し合い、交流できる場を作りたい。	出来るだけ多くの方に推進会議への出席を呼びかけ、それによって家族同士の交流へと繋げていきたい。	随時達成まで
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。